

エージェント時代の 研究と執筆

～AIとどこまで行くべきか～

日時・会場

東広島キャンパス

対象：広島大学の研究者 ※大学院生も参加可
教員研修プログラム対象 ※職員証をお持ちください。

2026年6月1日 (月)

【日本語】セミナー 14:30 – 16:00

意見交換 16:00 – 16:30

2026年6月2日 (火)

【英語】セミナー 14:30 – 16:00

意見交換 16:00 – 16:30

会場：東図書館 3階 ワークショップエリア

※英語と日本語の講演内容は同じです。

近年、AIは「ツール」から「エージェント」へと急速に進化し、文献調査からデータ分析、論文の執筆・推敲まで、研究プロセスの広範囲をAIに委ねることが技術的には可能になりつつある。本セミナーでは、エージェント時代の最前線を概観したうえで、研究者・書き手が直面する未解決の難問を率直に取り上げる。AIに支援された分析や執筆は、どこまでが「自分の研究」と言えるのか。論文の「著者」とは誰で、業績はどう測ればよいのか。引用・著作権の慣行はどう変わり、AIによる文章生成と従来の学術ライティングの作法はどう折り合いをつけるべきか。自律的AI研究システムが現実味を帯びる中で、人文社会科学を含む各分野の研究者のアイデンティティと役割はどう再定義されるのか。いずれも明確な答えのない問いばかりだが、講師自身によるAIを用いた論文執筆・自律的研究の実験なども材料に、参加者と一緒に「どこまで行くべきか」を議論したい。

講師



トム・ガリー Tom Gally

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部の教授として、アカデミック英語プログラムの開発・運営に携わった。現在は東京大学名誉教授、同大学グローバル教育センター特任教授、そして東京都市大学教育開発機構特任教授。学術リテラシーの視点から、大学における英語教育と機械翻訳・生成AIの問題について情報発信を行っている。個人サイト：gally.net

参加登録はこちら

